

令和3年度国内希少野生動植物種新規指定候補種の概要

表1 令和3年度の国内希少野生動植物種（特定第二種国内希少野生動植物種を含む。）の指定候補種一覧

綱名	種名	卵・種子の指定	特定第二種
四 両生綱	サンショウウオ科		
	1) <i>Hynobius abuensis</i> (アブサンショウウオ)	●	●
	2) <i>Hynobius akiensis</i> (アキサンショウウオ)	●	●
	3) <i>Hynobius bakan</i> (ヤマグチサンショウウオ)	●	●
	4) <i>Hynobius boulengeri</i> (オオダイガハラサンショウウオ)	●	●
	5) <i>Hynobius dunni</i> (オオイタサンショウウオ)	●	●
	6) <i>Hynobius fossigenus</i> (ヒガシヒダサンショウウオ)	●	●
	7) <i>Hynobius guttatus</i> (マホロバサンショウウオ)	●	●
	8) <i>Hynobius hidamontanus</i> (ハクバサンショウウオ)	●	
	9) <i>Hynobius ikioi</i> (ベッコウサンショウウオ)	●	●
	10) <i>Hynobius iwami</i> (イワミサンショウウオ)	●	●
	11) <i>Hynobius katoi</i> (アカイシサンショウウオ)	●	
	12) <i>Hynobius kuishiensis</i> (イヨシマサンショウウオ)	●	●
	13) <i>Hynobius kunibiki</i> (イズモサンショウウオ)	●	●
	14) <i>Hynobius naevius</i> (ブチサンショウウオ)	●	●
	15) <i>Hynobius nebulosus</i> (カスマサンショウウオ)	●	●
	16) <i>Hynobius okiensis</i> (オキサンショウウオ)	●	●
	17) <i>Hynobius oyamai</i> (チクシブチサンショウウオ)	●	●
	18) <i>Hynobius sematonotos</i> (チュウゴクブチサンショウウオ)	●	●
	19) <i>Hynobius setoi</i> (サンインサンショウウオ)	●	●
	20) <i>Hynobius setouchi</i> (セトウチサンショウウオ)	●	●
	21) <i>Hynobius stejneri</i> (コガタブチサンショウウオ)	●	●
	22) <i>Hynobius tsurugiensis</i> (ツルギサンショウウオ)	●	
	23) <i>Hynobius utsunomiyaorum</i> (ヒバサンショウウオ)	●	●
	24) <i>Hynobius vandenburghi</i> (ヤマトサンショウウオ)	●	●
	25) <i>Onychodactylus kinneburi</i> (シコクハコネサンショウウオ)	●	●
26) <i>Salamandrella keyserlingii</i> (キタサンショウウオ)	●	●	
七 二枚貝綱	カワシンジュガイ科		
	27) <i>Margaritifera laevis</i> (カワシンジュガイ)		●
	28) <i>Margaritifera togakushiensis</i> (コガタカワシンジュガイ)		●
植物界	キク科		
	29) <i>Saussurea insularis</i> (シマトウヒレン)		
	カヤツリグサ科		
	30) <i>Carex lehmannii</i> (センジョウスゲ)		
	31) <i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i> (カドハリイ)		
イネ科			
32) <i>Stipa alpina</i> (ヒゲナガコメススキ)			

<両生類>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>1. アブサンショウウオ (<i>Hynobius abuenis</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少 野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は大型（オス全長78～134mm、平均108mm）で胴は短い。四肢は長い。尾は非常に長く、下縁に黄色の条線がない。トサシミズサンショウウオを姉妹種としアキサンショウウオ・ヒバサンショウウオのなす群と姉妹群をなす。ヒバサンショウウオより尾は長く、丈が高く、幅が狭くて、四肢が長く、アキサンショウウオより大型で、頭が幅広く、尾と四肢が長く、前後肢の重なりが大きい。卵囊外被に条線がある。既知の産地の標高は150～970m。イワミサンショウウオとの分布の境界地域ではイワミサンショウウオよりも標高の高い場所に生息する。溝、水たまり、放棄水田、湧水、湿地、池等で繁殖する。</p>
		②分布域	島根県、山口県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、交通事故、捕獲、管理放棄、遷移進行・植生変化、自然災害、交雑（在来種による）。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>2. アキサンショウウオ (<i>Hynobius akiensis</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>体は小型(オス全長73~123mm、平均97mm)、前後肢は比較的短くて2肋皺分、分離し、鋤骨歯列は長く幅広い。尾は中程度の長さで通常尾の上下縁に黄色の条線を持たない。ヒバサンショウウオと単系統群をなすが、鋤骨歯列と第5趾相対長がより長く、前後肢の分離の程度が大きい。アブサンショウウオより頭胴長と前後肢間比が小さく、頭が短く、尾と四肢が短く、前後肢の重なり程度が低い。</p> <p>既知の産地の標高は80~600m。放棄水田周辺の溝での産卵が多く知られ、他に湿地、流れの緩やかな小川、小さい水たまりなどでも繁殖する。</p> <p>島根県、広島県、愛媛県に分布する。</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、捕獲、捕食(外来種による)、管理放棄、遷移進行・植生変化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛媛県条例指定種 ・市町村指定天然記念物 <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>3. ヤマグチサンショウウオ (<i>Hynobius bakan</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	<p>①種の特徴</p> <p>②分布域</p> <p>③存続を脅かす要因</p> <p>④その他</p>	<p>体はやや小型(オスの全長は63~123mm、平均100mm)。四肢は中庸で、尾は中程度に長く、常に上下縁に明瞭な黄色の条線を持つ。カスミサンショウウオ、ツシマサンショウウオと単系統群をなし、この群はイワミサンショウウオ、オキサンショウウオと単系統群をなす。本種はカスミサンショウウオより頭胴長が小さくて鋤骨歯列が幅広く、イワミサンショウウオより胴が長くて頭が短く、第5趾が良く発達する。</p> <p>湿地、溝、水たまり、放棄水田、池や流れの極めて緩やかな水路で繁殖する。</p> <p>山口県、大分県に分布する。</p> <p>開発等に伴う生息地の減少、捕獲、管理放棄、遷移進行・植生変化。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大分県条例指定種 <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>4. オオダイガハラサンショウウオ (<i>Hynobius boulengeri</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は大型、頑丈で、全長は120～204mm。尾は長く、頭胴長とほぼ等しい。鋤骨歯列はU字型に近いV字型で、体側には通常13本の肋条を持つ。前後肢を体側に沿って折り返すと、0～3肋皺分の隙間を生じる。後肢は5趾性。尾は後半部で著しく側偏し、丈が高い。背面は一様な石板色で、斑紋や斑点を持たない。腹面は背面より淡色。極めて大型で、ほとんど斑紋を持たず、尾の側偏の程度が著しいことでイシヅチサンショウウオを除く他のどの種とも区別される。イシヅチサンショウウオは鋤骨歯列が本種より短い。幼生はブチサンショウウオの幼生に似ているがより大型で、頭部はより角張る傾向がある。ハコネサンショウウオの幼生と異なり、四肢後面に皮膚のひだをもたず、背鰭は胴の中央から始まり、四肢端の黒色の爪も強くは発達しない。夏緑広葉樹林、針広混交林に生息する。既知の分布地点は標高200～1,750mの間にあり、ほとんどは400m以上である。山地溪流で繁殖する。</p>
		②分布域	三重県、奈良県、和歌山県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、開発等に伴う土砂流入、観光地化に伴う水質汚濁、捕獲。
		④その他	<p>・三重県、奈良県、和歌山県指定天然記念物</p> <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>5. オオイタサンショウウオ (<i>Hynobius dunni</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長はオスで157mm、メスで137mm程度。肋条数は11～13本。鋤骨歯列はUに近いV字型。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾間は2～3肋皺分重なり合う。後肢は5趾性。背面は黄褐色で黒色の点を散布し、メスでは側面から腹面にかけて銀白色の小点を散布する。卵囊表面には明瞭な条線を持たない。カスミサンショウウオに似るが、それより大型で、尾の上下縁に黄色の条線を持たない。卵囊は九州産のカスミサンショウウオのものほど細長くない。九州産と四国産では形態に若干の異なりがある。</p> <p>森林に接した池、沼、溝、小河川のたまりなどで繁殖する。</p>
		②分布域	熊本県、大分県、宮崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、農薬汚染、捕獲。
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> ・大分県指定天然記念物 ・市町村指定天然記念物 <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>6. ヒガシヒダサンショウウオ (<i>Hynobius fossigenus</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は大型（オスの頭胴長は66～81mm）で前後肢は1.5～2肋皺分離れる。尾は長い円筒形で後方で側扁する。通常5趾性。鋤骨歯は深く幅広いU字型。背面は暗い紫褐色で黄金色の斑紋があり、腹面はより淡く斑紋を欠く。山地溪流で繁殖し、色素が無い大きな卵を少数産む。卵囊皮は厚く虹色光沢があり、鞭状構造を持つ。ヒダサンショウウオより大型で、鋤骨歯列がより浅い。</p> <p>山地溪流で繁殖する。</p>
		②分布域	群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、山梨県、長野県、静岡県、愛知県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、農薬汚染、捕獲、自然災害。
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> ・群馬県指定天然記念物 <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・原生自然環境保全地域 ・都道府県指定自然環境保全地域

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>7. マホロバサンショウウオ (<i>Hynobius guttatus</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	<p>ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>頭胴長51～67mm。背面には赤褐色ないし濃青色の基色に、褐色がかかった白色の小さな斑点がある。四肢と尾は長い。胴に沿って押し付けられた前後肢は会合しない。山地溪流源流域の伏流水中で繁殖する。卵は大型で黒色素を欠く。卵嚢は短い紐状で遊離端に明瞭な鞭状構造を持たない。コガタブチサンショウウオより体が小さく、上下顎歯数と鋤骨歯数が少なく、相対的に頭が大きく、尾が短く鋤骨歯列が深い。山地溪流源流域の伏流水中で繁殖する。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、大阪府、奈良県、和歌山県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>開発等に伴う生息地の減少、捕獲、自然災害。</p>
		<p>④その他</p>	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>8. ハクバサンショウウオ (<i>Hynobius hidamontanus</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分： 国内希少野生動植物種</p>	<p>ウ、エ</p>	<p>①種の特徴</p>	<p>全長はオスで84mm、メスで87mm程度。肋条数は12本のことが多い。鋤骨歯列は浅いV字型。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾間に1.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢は4趾性。背面は暗褐色で銀白色の細点を密布し、腹面は淡褐色で銀白色の小点を密布する。卵嚢表面には明瞭な条線を持たない。トウホクサンショウウオに似るが、それよりも小型であり、尾や四肢もより短い。卵嚢外被に顕著な条線を持たない点でもトウホクサンショウウオと明瞭に区別される。</p> <p>繁殖は浅い湿原中や、森林内の細流の淀んだ部分で行われる。完全な止水ではなく湧水があり、泥底で落葉、枯木などの堆積のある箇所が選ばれる。</p>
		<p>②分布域</p>	<p>新潟県、富山県、長野県、岐阜県に分布する。</p>
		<p>③存続を脅かす要因</p>	<p>開発等に伴う生息地の減少、捕獲、管理放棄、遷移・植生変化。</p>
		<p>④その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県、富山県、長野県、岐阜県条例指定種 ・市町村指定天然記念物 <p>分布域の一部は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>9. ベッコウサンショウウオ (<i>Hynobius ikioi</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長は137～159mm程度。肋条数は12本であることが多い。鋤骨歯列は非常に深いV字型。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾間に2～3.5肋皺分の隙間ができる。後肢は5趾性。尾は円筒形だが、末端で側偏する。背面は黒褐色の地に黄色斑紋が入ったべつ甲状を呈し、腹面に斑紋を持たないか、ある場合も数は少ない。同所的に分布するコガタブチサンショウウオより体が大型、頑丈で、後肢第5趾の発達がよく、より長い。鋤骨歯列もより長く、幅が狭い。体色もコガタブチサンショウウオでは基色が茶褐色で、斑紋は黄色がかかった銀色である。標高500m以上1,500m程度の、森林に覆われた幅0.5～2mほどの溪流源流域とその斜面が生活場所である。山地溪流で繁殖する。</p>
		②分布域	熊本県、宮崎県、鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲。
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県指定天然記念物 ・宮崎県、鹿児島県条例指定種 <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>10. イワミサンショウウオ (<i>Hynobius iwami</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は小型(オス全長65～130mm、平均96mm)、尾は中程度に長く、上下縁に明瞭な黄色の条線を持つ。オキサンショウウオ、ヤマグチサンショウウオ、カスミサンショウウオ、ツシマサンショウウオと単系統群をなすが、それらの全てと、通常第5趾を欠くことで異なる。またヤマグチサンショウウオ、カスミサンショウウオより頭が長くて胴が短い。カスミサンショウウオより前後肢の重なりが大きく、肋条数が少ない。湿地、水たまり、放棄水田、溝などで繁殖する。</p>
		②分布域	島根県、広島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲、管理放棄、遷移・植生変化。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国立公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>11. アカイシサンショウウオ (<i>Hynobius katoi</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分： 国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長は92～117mm。肋条数は13本が多い。鋤骨歯列は浅いU字型。尾は円筒形だが、末端で側偏する。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾間にオスで1、メスで3肋皺分ほどの隙間ができる。後肢第5趾は短く、完全になくともある。背面は紫褐色で、明瞭な斑紋がなく、部分的に小さな銀白色斑点を持つことがある程度。腹面は淡褐色で、のどに斑点を持つ。同所的に生息するヒガシヒダサンショウウオは、背面に黄色の斑点を持つ個体が一般的であり、体も太くて短く、鋤骨歯列もより深いU字型である。</p> <p>標高500～1,200mにある針広混交林に生息し、小さな溪流の源流域付近の礫の多い斜面で生活する。野外における卵や幼生の確認事例はなく、詳細は不明。幼生も地下で生活するものと考えられる。</p>
		②分布域	山梨県、長野県、静岡県、愛知県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲。
		④その他	<p>・山梨県、長野県条例指定種</p> <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>12. イヨシマサンショウウオ (<i>Hynobius kuishiensis</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>頭胴長52～70mm。背面は、多くの地域では紫褐色地に銀白色の斑紋や斑点が散在するが、生息地によっては褐色地に黄白色の斑紋を持つ場合もある。遺伝的にはツルギサンショウウオやコガタブチサンショウウオと近縁で、それらと形態的に酷似する個体がいる。落葉広葉樹林や針葉樹林内の谷沿いの林床の倒木下や砂礫中に生息し、5～6月に湧水中で産卵する。卵嚢は紐状で長さは80～120mm、一腹卵数は17～27個。落葉広葉樹林や針葉樹林内の谷沿いの林床の倒木下や砂礫中に生息し、5～6月に湧水中で産卵する。</p>
		②分布域	徳島県、愛媛県、高知県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲、自然災害
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件※	種の概要	
<p>13. イズモサンショウウオ (<i>Hynobius kunibiki</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN) 相当※</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p> <p>※学術研究の進展により令和3年度に種が分化したため、環境省RL未掲載であるが、RL分科会にて相当するカテゴリーの評価を行った。</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>令和2(2020)年にヒバサンショウウオ出雲系統として報告された集団が令和3(2021)年に本種として記載された。体は比較的大型(頭胴長51~66mm;平均頭胴長はオスで58.9mm、メスで58.2mm)で、ほとんどの場合、オスは腹面の明瞭な白斑を欠き、雌雄とも体側の白斑がほぼない。背面は一様に黄褐色から黒褐色で、成体の背面には黒斑がない。鋤骨歯列はV字型で、肋条数は12又は13、稀に11。卵嚢はコイル状になる。尾の上縁及び下縁に黄色条線を持つ。</p> <p>ヒバサンショウウオに比べて大型で、頭胴長に対する尾長、尾の高さ、鋤骨歯列長などが大きい。ヒバサンショウウオは尾の下縁に黄色条線を持たない。形態的特徴はサンインサンショウウオに似るが、オスでは頭胴長に対する胴長、頭長などが、メスでは頭胴長に鋤骨歯列長や前肢長が、両種の間でそれぞれ統計的に異なる。尾の上下縁に黄色条線を持つことでアキサンショウウオと、後肢が5趾であることでイワミサンショウウオと区別できる。</p> <p>シイとカシの混交林などに生息し、林縁の止水域で繁殖する。</p>
		②分布域	島根県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲・遷移・植生変化、自然災害(以上は広義のヒバサンショウウオとして評価されたもの)。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>14. ブチサンショウウオ (<i>Hynobius naevius</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	成体の頭胴長は63～94mm。背面は青紫色で斑紋を欠く。側面、腹部には白色の斑紋を持つ。3月から6月初旬に山地溪流で繁殖。卵嚢は三日月型。卵径は4.6～5.9mm、一腹卵数は15～23個。幼生は孵化した年の秋までに変態するが、一部は幼生越冬する。山地溪流で繁殖する。
		②分布域	福岡県、佐賀県、長崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲。
		④その他	分布域は以下に含まれる可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
		①種の特徴	全長は94～117mm程度。肋条数は13本のが多く、まれに12本である。鋤骨歯列はV字型。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾間に0.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢第5趾がないこともある。尾は側偏する。背面は緑褐色、淡灰褐色、暗褐色などで細かい褐色の斑点を散布する個体が多い。尾の上縁には明瞭な黄色条線をもつのが普通。本種の鋤骨歯列は深いV字型で肋皺数が13本である。卵嚢外被に明瞭な条線をもたない。ヤマグチサンショウウオより大型で鋤骨歯列の幅が狭い。イワミサンショウウオより大型で鼻孔間の距離が大きく、胴と第5趾が長く、肋皺数が多く、頭部が短く前後肢の重なり程度が小さい。放棄水田、池、溝や流れのきわめて緩やかな水路で繁殖する。
		②分布域	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲、捕食(外来種による)、管理放棄、遷移進行・植生変化。
		④その他	・鹿児島県指定天然記念物 分布域は以下に含まれる可能性がある。 <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>15. カスミサンショウウオ (<i>Hynobius nebulosus</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少 野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長は94～117mm程度。肋条数は13本のが多く、稀に12本である。鋤骨歯列はV字型。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾間に0.5～2肋皺分の隙間ができる。後肢第5趾がないこともある。尾は側偏する。背面は緑褐色、淡灰褐色、暗褐色などで細かい褐色の斑点を散布する個体が多い。尾の上縁には明瞭な黄色条線を持つ個体が一般的。本種の鋤骨歯列は深いV字型で肋皺数が13本である。卵囊外被に明瞭な条線を持たない。ヤマグチサンショウウオより大型で鋤骨歯列の幅が狭い。イワミサンショウウオより大型で鼻孔間の距離が大きく、胴と第5趾が長く、肋皺数が多く、頭部が短く前後肢の重なり程度が小さい。放棄水田、池、溝や流れの極めて緩やかな水路で繁殖する。</p>
		②分布域	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、鹿児島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲、捕食(外来種による)、管理放棄、遷移進行・植生変化。
		④その他	<p>・鹿児島県指定天然記念物</p> <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>16. オキシサンショウウオ (<i>Hynobius okiensis</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長はオスで119mm、メスで129mm程度。肋条数は通常13本、稀に14本である。鋤骨歯列は後縁で狭まるV字型。前後肢を体側に沿って折り返すと、前後の趾端は1肋皺分近く重複する。後肢は5趾性。尾は基部から後方1/3までは円筒形だが、それより後方でかなり側偏し、尾端ではキール状に近い。背面は赤紫がかった飴色で、さまざまな変異のある黄色の斑紋を持つ。腹面には斑紋を持たない。卵囊表面にはやや明瞭な縦の条線を持つ。四肢はブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオほど強健、かつ短くはなく、カスミサンショウウオ群に似て弱く長い。ブチサンショウウオやヒダサンショウウオでは、体側に沿って折り返すと、前後肢の趾端が2～3肋皺分離れる（ブチサンショウウオ、ヒダサンショウウオでは多くは尾は円筒形で側偏しない）。常緑広葉樹の二次林、スギ林に生息する。低地から山頂近くまで生息し、幼生は林内を流れる急峻な溪谷で、また変態後は溪流近くの斜面で生活する。</p>
		②分布域	島根県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、開発等に伴う土砂流入、水質汚濁、水流の変化、捕獲。
		④その他	<p>・市町村指定天然記念物</p> <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>17. チクシブチサンショウウオ (<i>Hynobius oyamai</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>成体の頭胴長は65～89mm。背面は青紫色で通常、斑紋を欠くが、銀白色の斑紋を有するものもいる。側面、腹部には銀白色から白色の斑紋を持つ。3月から6月初旬に山地溪流で繁殖。卵囊は三日月型。卵径は4.7～6.3mm、一腹卵数は17～55個。幼生は孵化した年の秋までに変態するが、一部は幼生越冬する。地域によってはコガタブチサンショウウオと混生する。スギ植林地から広葉樹林の源流域に生息し、山地溪流で繁殖する。</p>
		②分布域	福岡県、熊本県、大分県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>18. チュウゴクブチサンショウウオ (<i>Hynobius sematonotos</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>頭胴長は58～82mm。背面は赤紫から青紫色で通常、灰色から茶白色の斑紋を持つ。側面、腹部にも白色の斑紋を持つ。4月から6月に山地溪流で繁殖。卵囊は三日月型。卵径は4.7～5.7mm、一腹卵数は11～39個。幼生は全長で38.5～50.0mmに達し、孵化した年の秋までに変態するが、一部は幼生越冬する。地域によってはヒダサンショウウオ、ヒバサンショウウオと混生する。</p> <p>スギ植林地から広葉樹林の源流域に生息し、山地溪流で繁殖する。</p>
		②分布域	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲。
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村指定天然記念物 分布域は以下に含まれる可能性がある。 ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>19. サンインサンショウウオ (<i>Hynobius setoi</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は大型(オスの全長は83～117mm、平均103mm)、四肢は比較的長く、多くは第5趾を持つ。尾の上下縁には明瞭な黄色の条線がある。ホクリクサンショウウオ、ミカワサンショウウオ、クロサンショウウオと単系統をなす。ヤマトサンショウウオより前後肢の重なりが大きく、肋皺の数が少ない。セトウチサンショウウオに比べて大型で胴と鋤骨歯列が短く、肋皺の数が少ない。</p> <p>溝、放棄水田、湧水に産卵する事例が多い。</p>
		②分布域	兵庫県、鳥取県、島根県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲、捕食(外来種による)、管理放棄、遷移進行・植生変化。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>20. セトウチサンショウウオ (<i>Hynobius setouchi</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は小型(オス全長78～104mm、平均92mm)、四肢は比較的長く、ほとんど常に第5趾を持つ。尾は長く、上下縁には通常黄色の条線を欠く。卵囊外被には条線がない。トウキョウサンショウウオ及びヤマトサンショウウオのなす系統と単系統群をなす。ヤマトサンショウウオより鋤骨歯列が大きく、サンインサンショウウオより頭胴長が小さく、胴と鋤骨歯列が長く、肋皺の数が多く、頭が短い。</p> <p>放棄水田、池、溝や流れの極めて緩やかな水路で繁殖する。</p>
		②分布域	<p>大阪府、兵庫県、和歌山県、岡山県、広島県、徳島県、香川県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲、捕食(外来種による)、管理放棄、遷移進行・植生変化、近親交配。</p>
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>21. コガタブチサンショウウオ (<i>Hynobius stejnegeri</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>頭胴長は51～72mm。背面は赤紫から暗褐色で白色から茶白色の斑紋を持つ。側面、腹部には白色の斑紋を持つ。4～5月に源流部の伏流水中で繁殖。卵囊は紐状。卵径は4.6～5.0mm、一腹卵数は7～19個。幼生は、卵黄のみで成長し、孵化した年の夏に変態する。九州北部でチクシブチサンショウウオ、中南部で、ベッコウサンショウウオ又はソボサンショウウオと混生する。</p> <p>源流部の伏流水中で繁殖。</p>
		②分布域	<p>福岡県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県に分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発等に伴う生息地の減少、捕獲。</p>
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
22. ツルギサンショウウオ (<i>Hynobius tsurugiensis</i>) 分類：サンショウウオ科 環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN) 固有種 指定区分： 国内希少野生動植物種	ウ、エ	①種の特徴	成体は頭胴長51～74mm。背面は褐色地に黄白色の斑紋がある。腹面は黒色で斑紋を欠く個体が多い。遺伝的にはマホロバサンショウウオと最も近縁だがイヨシマサンショウウオにも近く、形態的に酷似する個体がいる。生息環境は落葉広葉樹林や針葉樹林内の谷沿いである。普段は林床の倒木下や砂礫中に生息し、5～6月に湧水中で産卵する。卵嚢は紐状。卵嚢の長さは80～120mm、幅8～13mm。一腹卵数は19～28個。生息範囲は標高1,100m以上の主に自然林で、源流部で繁殖する。
		②分布域	徳島県、高知県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、捕獲、自然災害。
		④その他	分布域は以下に含まれる可能性がある。 ・ 国定公園 ・ 都道府県立自然公園 ・ 国指定鳥獣保護区 ・ 都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>23. ヒバサンショウウオ (<i>Hynobius utsunomiyaorum</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は小型(オスの全長は72~103mm、平均93mm)、前肢は比較的短く、後肢は中程度の長さ。ハクバサンショウウオと遺伝的に非常に近く、アキサンショウウオと単系統群をなす。アキサンショウウオより前後肢の会合程度が大きく、鋤骨歯列と第5趾が短い。一部の個体群を除き、第5趾を欠くか痕跡的。鋤骨歯列は比較的短い。体色には大きな変異がある。尾に黄色の条線を欠く。</p> <p>繁殖環境は湿地が最も多く、溝や水たまり、小さい溪流、放棄水田、小規模な湧水地、小さい池でも繁殖する。</p>
		②分布域	兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲、遷移進行・植生変化、自然災害。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>24. ヤマトサンショウウオ (<i>Hynobius vandenburghi</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>体は大型(オスの全長は73~126mm、平均95mm)。四肢は比較的短く、尾の上下縁には通常、黄色の条線がある。トウキョウサンショウウオと姉妹群をなし、この群はセトウチサンショウウオと姉妹群をなす。セトウチサンショウウオに比べ鋤骨歯列が短く、サンインサンショウウオに比べ尾と前後肢間が長く、肋皺の数が多く、頭が小さく、眼窩間と尾幅が狭く、後肢が短く、前後肢の重なりが小さい。</p> <p>放棄水田、池、溝や流れの極めて緩やかな水路で繁殖する。</p>
		②分布域	岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、奈良県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲、捕食(外来種による)、管理放棄、遷移進行・植生変化。
		④その他	<p>・京都府、奈良県条例指定種</p> <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>25. シコクハコネサンショウウオ (<i>Onychodactylus kinneburi</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧II類 (VU)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>全長12～18cm、背面に明瞭な黄色や橙黄色の縦帯又は不連続な斑紋をもち、腹面は白から灰色で白点をほとんど生じない。ハコネサンショウウオで見られる胸部腹面の暗色斑紋を本種は欠く。 山地の溪流付近に生息し、伏流水中の岩などに産卵する。</p>
		②分布域	岡山県、広島県、山口県、徳島県、愛媛県、高知県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少。
		④その他	<p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・都道府県指定自然環境保全地域 ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区
<p>26. キタサンショウウオ (<i>Salamandrella keyserlingii</i>)</p> <p>分類：サンショウウオ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	ウ、エ	①種の特徴	<p>日本産の他の小型サンショウウオ類とは異なり、キタサンショウウオ属に含まれる。頭胴長6cm程度、全長12cm程度の小型のサンショウウオ。体の背面には、暗褐色の地に金色の帯を持つ。肋条数は13本。鋤骨歯列は小さくて浅いV字形で、後脚の趾は4本である。4月中旬頃から5月中旬頃にかけて池や水たまりで産卵し、幼生は7月頃に変態・上陸する。</p>
		②分布域	北海道、千島列島、サハリンからユーラシア大陸北部(ロシア東部まで)に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、水質汚濁、捕獲、捕食(外来種による)、遷移進行・植生変化。
		④その他	<p>・市町村指定天然記念物</p> <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国指定鳥獣保護区

<貝類>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>27. カワシンジュガイ (<i>Margaritifera laevis</i>)</p> <p>分類：カワシンジュガイ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種</p>	イ、エ	①種の特徴	<p>殻は長卵形で、殻長は通常15cmを超えない。前閉殻筋痕は丸い耳状である。幼生は円形で、殻長は0.07mmである。幼生の腹縁には小さな歯が不規則に並ぶ。水温が10℃を超える頃に幼生が放出される。幼生はヤマメやアマゴ等のサケ属魚類の鰓に寄生して成長し、40～50日後に殻長0.3～0.6mmの稚貝となって脱落する。成長が良好であると短命で、成長が悪いと長寿となる。最大寿命は約150年である。</p> <p>夏季の水温が20℃を超えない、清冽な水が緩やかに流れる水域の礫～泥底に生息する。</p>
		②分布域	<p>北海道、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、福島県、茨城県、栃木県、石川県、長野県、岐阜県、京都府、島根県、岡山県、広島県に分布する。国外ではサハリン、カムチャツカ半島で確認されている。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>開発等に伴う生息地の減少、開発等に伴う土砂流入・水温上昇、捕獲。</p>
		④その他	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県条例指定種 ・長野県、岡山県指定天然記念物 ・市町村指定天然記念物 <p>分布域は以下に含まれる可能性がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 ・国定公園 ・都道府県立自然公園 ・重要湿地

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
28. コガタカワシンジュガイ (<i>Margaritifera togakushiensis</i>) 分類：カワシンジュガイ科 環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN) 指定区分：特定第二種国内希少野生動植物種	イ、ウ、エ	①種の特徴	殻は長卵形で、殻長は通常10cmを超えない。前閉殻筋痕は尖った耳状である。幼生は円形で、殻長は0.07mmである。幼生の腹縁には小さな歯が不規則に並ぶ。幼生はイワナ属魚類の鰓に寄生して成長し、40～50日後に殻長0.3～0.6mmの稚貝となって脱落する。成長はやや遅く（河川の状態によって異なる）、寿命は約60年である。カワシンジュガイが同所的に生息する場所では交雑は生じない。 春以降の水温が10度を超える頃の日中に幼生が放出される。
		②分布域	北海道、青森県、岩手県、長野県に分布する。国外ではサハリン、カムチャツカ半島で確認されている。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生息地の減少、開発等に伴う土砂流入・水温上昇、捕獲。
		④その他	・市町村指定天然記念物 分布域は以下に含まれる可能性がある。 ・国立公園 ・国定公園 ・重要湿地

<維管束植物>

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>29. シマトウヒレン (<i>Saussurea insularis</i>)</p> <p>分類：キク科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有種</p> <p>指定区分： 国内希少野生動植物種</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年草。</p> <p>高さ30～50cm。茎は直立し、細く、翼はなく、上部で1～4回分枝する。根出葉は花時にも生存する。根出葉と下部の茎葉の葉身は草質、卵状三角形で基部はほこ形、長さ9～10cm、幅3～6cm、尾状鋭尖頭、基部は心形、上面はまばらに毛があり、下面は当初はくも毛があり、葉柄は長さ1～2cm、翼はない。頭花は2～十数個が散房状にまばらに付き、径1.5cm、柄は長さ1～2cm。総苞は狭筒形、長さ11mm、径5～7mm、緑色、基部に鱗片状の苞葉が多数ある。総苞片は11～12列、圧着し、外片は広卵形、長さ2mm、微突端。花冠は長さ11mm、淡紅紫色。瘦果は長さ5mm。冠毛は2列、外輪は長さ0.3～1mm、内輪は長さ8mm。染色体数2n=26。</p> <p>岩場、岩混じりの草地に生育する。</p>
		②分布域	長崎県に分布する。
		③存続を脅かす要因	園芸採取、シカ食害、豪雨による表土流出、乾燥化。
		④その他	<p>・長崎県条例指定種</p> <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園 ・ 都道府県指定鳥獣保護区 ・ 国指定天然記念物
<p>30. センジョウスゲ (<i>Carex lehmannii</i>)</p> <p>分類：カヤツリグサ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>指定区分： 国内希少野生動植物種</p>	ア	①種の特徴	<p>多年草。</p> <p>根茎は短く匍匐し、まばらに生える。基部の鞘は葉身がなく赤褐色を帯びる。葉はやわらかく幅2～4mm、有花茎よりも短い。有花茎は高さ10～30cm。小穂は3～4個で上部に接してつき、頂小穂は雌雄性で雄花部は短く、側小穂は雌性、長さ6～8mm。最下の苞は長い葉身があり無鞘。雌鱗片は黒紫色で果胞よりも著しく小さい。果胞は長さ約2mm、著しくふくれた3稜形、淡緑白色で無毛、嘴は極めて短く、口部は全縁。柱頭は3岐。</p> <p>亜高山の針葉樹林下に生育する。</p>
		②分布域	山梨県、長野県に分布する。国外では朝鮮、中国～ヒマラヤに分布する。
		③存続を脅かす要因	人の踏み付け、シカ食害、自然遷移、産地局限。
		④その他	<p>生育地は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立公園 <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 都道府県指定鳥獣保護区

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>31. カドハリイ (<i>Eleocharis tetraquetra</i> var. <i>tsurumachii</i>)</p> <p>分類：カヤツリグサ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IA類 (CR)</p> <p>固有変種</p> <p>指定区分： 国内希少野生動植物種</p>	ウ	①種の特徴	<p>多年草。 植物体はまばらに叢生し、短い根茎を出す。有花茎は鋭い4稜があり、高さ60～80cm、幅約1.5mm。基部の鞘は濃茶色、口部は平切形で多くは褐色を帯びる。小穂は直立し、狭卵形～楕円形、長さ1～1.5cm。鱗片は螺旋状につき、広卵形で密に並び、長さ4.5～5mm、円頭。瘦果は倒卵形、長さ1mm、横断面は扁3稜形。柱基は3角錐形、瘦果の半長又はわずかに長く、幅は瘦果の約半分。刺針状花被片は6本、紫色を帯び、瘦果とほぼ同長か瘦果より長く、小刺は短い。柱頭は3岐。 マシカクイに比べてやや軟らかく、鱗片は鈍い。穂の鱗片縁が母種のそれより幅広く、それゆえ穂の表面が多少滑らかに見える。 湿地に生育する。</p>
		②分布域	茨城県に分布する。
		③存続を脅かす要因	開発等に伴う生育地の減少、水質汚濁、自然遷移、産地局限。
		④その他	<p>生育地は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国定公園

種名 (学名)	選定要件*	種の概要	
<p>32. ヒゲナガコメスキ (<i>Stipa alpina</i>)</p> <p>分類：イネ科</p> <p>環境省RLカテゴリー： 絶滅危惧IB類 (EN)</p> <p>指定区分： 国内希少野生動植物種</p>	ア	①種の特徴	<p>多年草。 稈は束生、直立、高さ15～30cm、葉の大部分は根元に集まる。葉身は内側に巻いて糸状、長さ2～10cm、幅0.5mmほど、隆起した5～7脈がある。葉舌は膜質、高さ1.5mmほど。円錐花序は10cm内外、枝はごくまばらでほとんど平滑、それぞれが1～2個の小穂をつける。小穂は1小花からなり、長さ5mmほど、やや光沢があって、しばしば赤紫色を帯び、10～20mmの長柄を持つ。護穎の先の2歯の間から太い芒が出て、芒は長さ15～22mm、全長にわたり白色の長毛が羽状に密生する。 高山帯の岩礫地に生育する。</p>
		②分布域	<p>富山県、山梨県、長野県に分布する。国外では朝鮮北部、中国北部、シベリア東部、ウスリーに分布する。</p>
		③存続を脅かす要因	<p>人による踏みつけ、産地局限、気候変動、砂礫地の崩壊。 ※専門家意見として、今後は高山帯に侵出しているシカの影響も懸念されるとの指摘も受けている。</p>
		④その他	<p>生育地は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園 <p>生育地の一部は以下に含まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国指定鳥獣保護区 ・都道府県指定鳥獣保護区 ・国指定特別天然記念物

※選定要件について

○希少野生動植物種保存基本方針(平成30年4月17日環境省告示第38号)(抄)

第二 希少野生動植物種の選定に関する基本的な事項

1 国内希少野生動植物種

(1)国内希少野生動植物種については、その本邦における生息・生育状況が、人為の影響により存続に支障を来す事情が生じていると判断される種(亜種又は変種がある種にあつては、その亜種又は変種とする。以下同じ。)で、以下のいずれかに該当するものを選定(絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(平成四年法律第七十五号。以下、第八を除き「法」という。)に基づく指定ではなく、同法に基づき指定すべき種を選定を指す。以下同じ。)する。

ア その存続に支障を来す程度に個体数が著しく少ないか、又は著しく減少しつつあり、その存続に支障を来す事情がある種

イ 全国の分布域の相当部分で生息地等が消滅しつつあることにより、その存続に支障を来す事情がある種

ウ 分布域が限定されており、かつ、生息地等の生息・生育環境の悪化により、その存続に支障を来す事情がある種

エ 分布域が限定されており、かつ、生息地等における過度の捕獲又は採取により、その存続に支障を来す事情がある種

令和3年度 国内希少野生動植物種の選定に関する検討会における

各候補種に対する意見概要

1. 日時

令和3（2021）年7月1日（木）14:00～17:00

2. 出席者

＜検討委員＞（五十音順 敬称略）

石井 信夫 東京女子大学 名誉教授
 石井 実 大阪府立大学 名誉教授 ＜座長＞
 （地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長）
 尾崎 清明 公益財団法人 山階鳥類研究所 副所長
 尾関 雅章 長野県環境保全研究所 主任研究員
 角野 康郎 神戸大学 名誉教授
 近藤 高貴 大阪教育大学 名誉教授
 島田 知彦 愛知教育大学理科教育講座 准教授
 白山 義久 京都大学 名誉教授
 鈴木 浩司 富山県立大学工学部教養教育センター（生物） 准教授
 中静 透 国立研究開発法人森林研究・整備機構 理事長
 中西 弘樹 長崎大学 名誉教授
 中村 太士 北海道大学大学院農学研究院 教授
 成島 悦雄 公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事
 増澤 武弘 静岡大学 客員教授
 松井 正文 京都大学 名誉教授
 吉田 正人 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授

＜環境省＞

中尾 文子 自然環境局野生生物課 課長
 山本 麻衣 自然環境局野生生物課希少種保全推進室 室長
 谷垣 佐智子 自然環境局野生生物課希少種保全推進室 室長補佐
 早瀬 穂奈実 自然環境局野生生物課希少種保全推進室 指定検討第一係長
 鈴木 規慈 自然環境局野生生物課希少種保全推進室 指定検討第二係長
 一般財団法人 自然環境研究センター

3. 各候補種に対する意見概要

今回科学委員会に提示した候補種に係る意見は次のとおり。

【両生類】

- ・ 小型サンショウウオ類については、基本的な方針として特定第二種国内希少野生動植物種（以下「特定第二種」という。）へ指定することに異論はない。小型サンショウウオ類に対する捕獲圧は明らかに存在し、目に見える脅威であるため、特定第二種への指定は効果的である。販売業者による採集やインターネットオークションへの出品から種全体を守ることができるであろう。
- ・ 一方で、都道府県条例により既に捕獲禁止となっている種を特定第二種に指定することで、既存の保全対策に支障をきたさないか把握する必要がある。
- ・ 生息状況や生態等から一部の種は特定第二種ではなく国内希少野生動植物種（以下「国内希少種」という。）としての指定も検討すべきである。

【貝類】

- ・ カワシンジュガイ・コガタカワシンジュガイについては、特定第二種へ指定することに異論はない。カワシンジュガイはタナゴ類の産卵母貝として大量に売買されており、販売規制の効果は非常に大きい。
- ・ カワシンジュガイの貝殻は伝統工芸の螺鈿（らでん）に使われている可能性があり、伝統工芸に悪影響が出ないことの裏付けを取る必要がある。

【維管束植物】

- ・ シマトウヒレンについては、指定することに異論はない。シカの食害を受けて消失しており、シカが到達できない場所以外には残っていない。
- ・ センジョウスゲについては、指定することに異論はない。シカの影響が非常に大きくなっている。保護対策を講じるためにも、国内希少種への指定は妥当である。指定により周辺の高山植物を含めて保護が進めばよいと考える。
- ・ カドハリイについては、指定することに異論はない。指定するだけでなく、生育するヨシ原の火入れや刈り払い等の保全体制をサポートしていくことが不可欠である。野焼きによるヨシ原の管理は、ヨシ原の維持だけでなく文化的にも大事である。また、カドハリイの生育地に生息が確認されているオオセッカの生息環境に悪影響が出ないように、火入れや刈り取りは一気に全体的に行わずに部分的に行う方がよい。
- ・ ヒゲナガコメスキについては、指定することに異論はない。個体数が圧倒的に少なく、最近の減少要因としてはシカの踏みつけによる場合が多い。指定により生育地周辺の高山植物を含めて保護が進めばよいと考える。